

教育、医療、介護…

ICTで課題解決

群大が共同事業体設立

教育や医療、介護といった分野で情報通信技術（ICT）を使って各種課題の解決に取り組むと、群馬大は共同事業体「ICTデータサイエンスコンソーシアム」

（会長・浅尾高行教授）を立ち上げた。会員として募集中の自治体や企業、教育機関、医療機関などが課題とノウハウやデータを、同大がソフトウェア

などの開発基盤をそれぞれ提供して共に研究を進める。ICTを使いこなせる地域の人材を増やす狙いもある。主に三つの分科会を設け

た。教育システム分科会ではオンライン学習や遠隔授業、それに適した教材や授業方法の開発を目指す。医療・介護分科会では症例カンファレンスなどの会議の電子化、ロボットを通じた見守りや面会などを研究する。データサイエンス教育に特化して方法論などを追究する分科会もある。会員には同大が持つ技術や各種データのほか、ソフトウェアも無償提供する。オンライン学習の教材を作

成できる「G-learning」や、医療スタッフの会議に使えるよう医療機関向けに細部を特化させ、遠隔診療にも対応した「G-conference」などがある。会員が職員らを学生や研究者として大学へ送り込み、一緒に研究しながら専門知識と技術を身に付けてもらうことも想定する。6月に学内で立ち上げ、8月下旬から会員の募集を始めている。（高野聡）